

欲しい暮らしは、自分で創る

▽まちづくりへの「当事者意識」

「この町には、何もない」。ここに暮らしていると、よく聞こえてくる言葉です。都市との比較をして発せられる言葉なのでしょうが、本当に何もないのだろうか、ずっと疑問でした。

私はここへ移住してきたとき、「あるもの」に目を向けると、とても素晴らしいポテンシャルを持っている町だと感激しました。実際、都会から羨ましがられる自然に恵まれた環境を、当たり前前に手にしている贅沢な町です。当たり前前すぎて価値を感じられないだけで、都会からみたら、十分に経済価値のある素材を内包した町なのです。

ないものばかりを数えながら町に住み続けるのか。諦めて、これまでと同じやり方を踏襲して商売や事業を続けていくのか。「あるも

の」に気づいた人間から、事業の転換を図っていくのか。町に育つ子どもたちへ手渡したい未来の葛巻は、どんな風景なのだろうか。

町の未来は、私たちの今の生活と直結しています。私たち町民が、まちづくりの「当事者意識」を持って、自分の住む町での暮らしをクリエイティブしていく時代が来ています。

従来の行政主導のまちづくりではなく、これからは町民・民間主導のまちづくりが真に地域経済を回していきます。行政の役割を、民間をサポートする「公民連携」に移すことにより、「欲しい暮らしは、自分で創る」という、まちづくりそのものの変革が必要になっていきます。

くずまき型DMOまちなか検討部会による2018年度「まちなかエリアビジョン」が策定されました。時を同じくして、部会員であり、実際にまちなかで民間有志主導のイベント開催を成功させていた私たちが、「株やど



株式会社やどり木
(葛巻町)
代表取締役

南 舘 則 江

り木」を設立しました。そして、まちなか活性のビジョンを具現化する民間プレイヤーとしての意識を高めました。

「やどり木」の理念は、町に根付く豊富なモノ・コトに、ヒトのパワーで価値を新たにつけ直し、発信すること。そこから確実な経済を生み出し、地域経済を循環させることです。現在は女性二人で経営していますが、経営などしたこともなかった私たち。あるのは「当事者意識」のみです。無謀な挑戦をするのではなく、確実に出来ることからスタートしました。

▽空き店舗を生かして新規事業を

私たちが真っ先に行ったのは、商店街の遊休不動産の活用でした。どんどんシャッター商店街化していくのは全国的に叫ばれていることと同じ状況です。日中、歩行者の姿はほと



空き店舗のセルフリノベーション風景

んどなく、休日は車の通過が多い。人が来て、お金を町に落としていく場所ではなくなくなっていく。事業の継承もなされない。それも仕方ないこと、という風潮に疑問を持ち、打開する解決策として「リノベーション」による「cafe やどり木」の立ち上げを決意しました。

cafe の店舗を決めるにあたって、元は衣料品店であった、まちなかの空き店舗を活用し、DIYで行いました。初期投資は自分たちで賄ったものの、不動産オーナーには家賃を抑えていただくようお願いしました。始めから家賃でとん挫するリスクを避けるためです。また、「投資回収を意識した上での借入」を行い、その金額を超えない範囲で施工を実施しました。スモールステップです。

内装はワークショップ（WS）形式で、私

たちを応援してくれる町内外の専門家や仲間たちと共に学びながら施工しました。工務店さんが応援にと、商品として使えないという町産材のアカマツ、カラマツの板材を寄付してくださいました。人件費、材料費の削減にもなりましたが、自分たちだけで完結しないこと、周囲を巻き込んで創り上げていくことは、関わった人が、完成するまでの過程で愛着を持ってくれます。お客様にもなっていくし、次なるお客様を連れて来てくれます。「先付営業」です。実際にリノベをお手伝い頂いた方は、お客様となって下さっています。

▽リノベーションは、記憶を繋いで今へ

オープンしてから、常連となった年配のお客様がある日、嬉しそうに紙袋を持ってきました。cafe が衣料品店だった時の紙袋でした。よく取って置いておられたものと驚きました。

町の歴史やその記憶は、リノベーションに



かつての衣料品店のひまわりの紙袋

より大切に引き継がれるのだと実感しました。それは同時に、この事業を町の人が受け入れ応援してくれているなによりの証し。「当事者意識」が目覚めていくきっかけになったのだと、本当に嬉しかった。今まで諦めが大きかった町の未来に、期待する想いも湧いてきていることを感じられた出来事。励まされ、背筋が伸びる思いでした。

こうして始まった「やどり木」の事業は、町にはなかった新規事業です。町の食材を使った飲食提供。やどり木の理念に共感する作家陣の作品展示販売。町の魅力をブランディングするデザイン事業。町にないものを創り出すイベント企画。どれもが町に暮らす私たちの「あったらいいな」を「仕事」にしたもの。

町にパン屋さんがなく、美味しいパンが食べたい理由で始めた、町外のパン屋さんのポツプアップは、いつかパン屋を空き店舗で開いてくれる若者を期待する裏テーマがあります。私たちは、次に続く若者を応援する重要な役目も担っているのです。

「町の色んな人やもの、想いが宿りますように」という想いでつけた会社名。過去も今も携えて、葛巻で愉しく生きていける発信源として、これからも自分たちの暮らしをクリエイトしていきたい。まだまだ私たちの挑戦は、始まったばかりです。